

人材養成および教育研究上の目的
<p>スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻は、運動、スポーツ、レクリエーション、レジャー、体育、健康、福祉等を対象とする学問の深化を図り、健康長寿社会の実現に向けて貢献し、高度なスポーツ知を拓く研究科として機能することを教育理念とする。博士課程前期では、競技スポーツ・学校体育・地域スポーツ・医療等の指導現場において高度な知識と技術を基に、体育・スポーツ・健康・レクリエーションに関する科学的指導を実践・応用できる専門家の養成を行う。博士課程後期では、健康増進や疾病・傷害の治療・予防・再発防止を目的とした運動プログラムの開発・実践に関する研究や、幼少期から高齢期に至るライフステージに応じたスポーツパフォーマンスの向上を目的とした研究などの専門的な領域について自立して研究活動を行い得る研究者を養成する。</p>

三つの方針（三つのポリシー）		
学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)	教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)	学生の受け入れ方針 (アドミッション・ポリシー)
＜博士課程前期＞		
<p>スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、修士（スポーツ健康科学）の学位を授与する。</p>		
知識・理解	<p>【学修成果の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自らの研究課題に関連する周辺領域の先行研究内容を多角的に理解し、説明することができる (DP1) 2) 自らの研究課題に直接的に関連する先行研究内容を理解し、説明することができる (DP2) 3) 自らの研究課題の目的、方法、結果、およびその意義を説明することができる (DP3) 4) スポーツ健康科学分野の指導現場において必要とされる科学的根拠について説明することができる (DP4) <p>【到達指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専修科目14単位、非専修科目14単位、共通必修科目2単位を修得している (DP1, 2, 3, 4) 2) 修士論文中間報告会で発表している (DP1, 2, 3, 4) 3) 修士論文の審査に合格している (DP1, 2, 3, 4) 4) 修士論文発表会で、自らの研究課題や関連する先行研究の内容を論理的に説明できる (DP1, 2, 3) 5) 修士論文発表会で、スポーツ健康科学分野における自らの研究課題の位置づけについて説明できる (DP4) 6) 国内外の学術雑誌に論文を発表している (DP1, 2, 3, 4) 7) 国内外の学会・研究会で発表している (DP1, 2, 3, 4) 	<p>【教育課程の編成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各自の専門性を高める 2) リサーチワークとコースワークを組み合わせる 3) 専門の枠を超えて幅広い知識の獲得を目指す。 <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各自の専門性を高めるために、リサーチワークである「特別研究」とコースワークである「特講」などの専修科目を設置する。 2) 周辺領域の幅広い知識獲得を意図した非専修科目を配置する 3) 論文指導教員全員によるオムニバス形式の共通必修科目「体育学研究概論」を設置する 4) スポーツ医学部門では講義科目と対応した実習科目を設置する <p>【学修成果の評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専修科目14単位、非専修科目14単位、共通必修科目2単位の成績で評価する (DP1, 2, 3, 4) 2) ルーブリック個別評価表において評価する (DP1, 2, 3, 4) 3) 修士論文中間報告会において評価する (DP1, 2, 3, 4) 4) 修士論文において評価する (DP1, 2, 3, 4) 5) 修士論文発表会において評価する (DP1, 2, 3, 4) 6) 修了判定資料において評価する (DP1, 2, 3, 4)
技能	<p>【学修成果の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) スポーツ健康科学分野の研究内容を論理的に論文としてまとめ、また、発表する能力を有している (DP5) 2) スポーツ健康科学分野の指導現場において、科学的根拠に基づく先進的指導を実践・応用する能力を有している (DP6) <p>【到達指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専修科目14単位、非専修科目14単位、共通必修科目2単位を修得している (DP5, 6) 2) 修士論文中間報告会で発表している (DP5, 6) 3) 修士論文の審査に合格している (DP5, 6) 4) 修士論文発表会で、自らの研究課題や関連する先行研究の内容を論理的に説明できる (DP5) 5) 修士論文発表会で、スポーツ健康科学分野における自らの研究課題の位置づけについて説明できる (DP6) 	<p>【教育課程の編成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各自の専門性を高める 2) リサーチワークとコースワークを組み合わせる 3) 専門の枠を超えて幅広い知識の獲得を目指す。 <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各自の専門性を高めるために、リサーチワークである「特別研究」とコースワークである「特講」などの専修科目を設置する。 2) 周辺領域の幅広い知識の獲得を意図した非専修科目を配置する 3) 論文指導教員全員によるオムニバス形式の共通必修科目「体育学研究概論」を設置する 4) スポーツ医学部門では講義科目と対応した実習科目を設置する <p>【学修成果の評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専修科目14単位、非専修科目14単位、共通必修科目2単位の成績で評価する (DP5, 6) 2) ルーブリック個別評価表において評価する (DP5, 6) 3) 修士論文中間報告会において評価する (DP5, 6) 4) 修士論文において評価する (DP5, 6) 5) 修士論文発表会において評価する (DP5, 6)
態度・志向性	<p>【学修成果の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自らの研究分野における研究倫理基準を遵守する姿勢を有している (DP7) 2) スポーツ健康科学分野の指導現場において、科学的根拠に基づく先進的指導を実践・応用する姿勢や意欲を有している (DP8) 3) 自らの研究や指導成果を国内外に広く発信する姿勢や意欲を有している (DP9) <p>【到達指標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学院学生倫理セミナーに参加している (DP7) 2) 修士論文中間報告会で発表している (DP7, 8) 3) 修士論文の審査に合格している (DP7, 8) 4) 修士論文において、自らの研究課題を指導現場にどのように実践・応用できるか説明できる (DP8) 5) 修士論文発表会において、自らの研究課題を指導現場にどのように実践・応用できるか説明できる (DP8) 6) 国内外の学術雑誌に論文を発表している (DP9) 7) 国内外の学会・研究会で発表している (DP9) 	<p>【教育課程の編成】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各自の専門性を高める 2) リサーチワークとコースワークを組み合わせる 3) 専門の枠を超えて幅広い知識の獲得を目指す。 <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各自の専門性を高めるために、リサーチワークである「特別研究」とコースワークである「特講」などの専修科目を設置する。 2) 周辺領域の幅広い知識の獲得を意図した非専修科目を配置する 3) 論文指導教員全員によるオムニバス形式の共通必修科目「体育学研究概論」を設置する 4) スポーツ医学部門では講義科目と対応した実習科目を設置する <p>【学修成果の評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 専修科目14単位、非専修科目14単位、共通必修科目2単位の成績で評価する (DP7, 8, 9) 2) ルーブリック個別評価表において評価する (DP7, 8, 9) 3) 修士論文中間報告会において評価する (DP7, 8) 4) 修士論文において評価する (DP7, 8) 5) 修士論文発表会において評価する (DP7, 8) 6) 修了判定資料において評価する (DP9)

【求める学生像】
 博士課程前期では、指導現場において科学的指導を実践・応用できる人材を育成するという観点から、
 1) スポーツや運動を科学的観点から研究することに興味のある人
 2) 競技スポーツのパフォーマンスを向上させるための科学的方法に興味のある人
 3) 教育現場で、より高度な科学的成果を取り入れようとしている人
 4) 医療現場で、運動による健康の維持や疾病の予防を図ろうとしている人の入学を求めている。

【入学者選抜の在り方】
 学生の受け入れにあたっては、一般入学試験に加え、推薦入学試験、社会人入学試験、外国人留学生試験、アスリート推薦入学試験、飛び級入学試験を実施し、大学院における学業・研究の遂行に必要な専門的知識、論理的で柔軟な思考力、ならびに学業・研究に対する強い意欲を有しているかを重視して選抜を行う。アドミッション・ポリシーに合致した入学者を選抜できたか否かについては、単位修得状況で評価する。

＜博士課程後期＞		
<p>スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（スポーツ健康科学）の学位を授与する。</p>	<p>スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を達成するため、次に掲げる方針に基づき、教育課程を編成・実施する。</p>	<p>スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、次に掲げる意欲と能力等を備えた学生・社会人・留学生を受け入れる。</p>
<p style="text-align: center;">知識・理解</p>	<p>【学修成果の目標】 1) 斬新かつ独創的な研究課題を設定することができる (DP1) 2) 自らの研究課題に関連する周辺領域の先行研究内容を多角的に理解し、説明することができる (DP2) 3) 自らの研究課題に直接的に関連する先行研究内容を理解し、説明することができる (DP3) 4) 自らの研究課題の目的、方法、結果、およびその意義を説明することができる (DP4) 5) スポーツ健康科学の発展に貢献する有益かつ新しい知見を見出すことができる (DP5)</p> <p>【到達指標】 1) スポーツ健康科学研究法の単位を取得している (DP1, 2, 3) 2) 研究計画書を提出し、その審査に合格している (DP1, 2, 3) 3) 博士論文を提出し、その審査に合格している (DP1, 2, 3, 4, 5) 4) 論文発表会で、自らの研究課題や関連する先行研究の内容を論理的に説明できるとともに、スポーツ健康科学分野における自らの研究課題の位置づけについて説明できる (DP1, 2, 3, 4, 5) 5) 2編以上の原著論文を発表している (DP1, 3, 4, 5) 6) 1編以上の英語原著論文を発表している (DP1, 3, 4, 5) 7) 国内外の学会・研究会で発表している (DP1, 3, 4, 5)</p>	<p>【教育課程の編成】 1) 各自の専門性を高める 2) 専門の枠を超えて幅広い知識の獲得を目指す 3) 基本的なリサーチメソッドの獲得を目指す</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 1) 各自の専門性を高めるために、「特別研究」を設置する。 2) 関連領域の知識獲得を意図して、論文指導教員全員によるオムニバス形式の科目を設置する 3) 基本的なリサーチメソッドの獲得を目指して、「スポーツ健康科学研究法」を設置する</p> <p>【学修成果の評価方法】 1) スポーツ健康科学研究法の成績で評価する (DP1, 2, 3) 2) 研究計画書において評価する (DP1, 2, 3) 3) 研究計画書の審査会において評価する (DP1, 2, 3) 4) 博士論文において評価する (DP1, 2, 3, 4, 5) 5) 博士論文の審査会において評価する (DP1, 2, 3, 4, 5) 6) 論文発表会において評価する (DP1, 2, 3, 4, 5)</p>
<p style="text-align: center;">技能</p>	<p>【学修成果の目標】 1) スポーツ健康科学分野の研究内容を論理的に論文としてまとめ、また、発表する能力を有している (DP6) 2) スポーツ健康科学分野の高等教育機関あるいは研究機関において、自立して研究活動を遂行する能力を有している (DP7)</p> <p>【到達指標】 1) スポーツ健康科学研究法の単位を取得している (DP6, 7) 2) 研究計画書を提出し、その審査に合格している (DP6, 7) 3) 博士論文を提出し、その審査に合格している (DP6, 7) 4) 論文発表会で発表している (DP6, 7) 5) 2編以上の原著論文を発表している (DP6, 7) 6) 1編以上の英語原著論文を発表している (DP6, 7) 7) 国内外の学会・研究会で発表している (DP6, 7)</p>	<p>【教育課程の編成】 1) 各自の専門性を高める 2) 専門の枠を超えて幅広い知識の獲得を目指す 3) 基本的なリサーチメソッドの獲得を目指す</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 1) 各自の専門性を高めるために、「特別研究」を設置する。 2) 関連領域の知識獲得を意図して、論文指導教員全員によるオムニバス形式の科目を設置する 3) 基本的なリサーチメソッドの獲得を目指して、「スポーツ健康科学研究法」を設置する</p> <p>【学修成果の評価方法】 1) スポーツ健康科学研究法の成績で評価する (DP6, 7) 2) 研究計画書において評価する (DP6, 7) 3) 研究計画書の審査会において評価する (DP6, 7) 4) 博士論文において評価する (DP6, 7) 5) 博士論文の審査会において評価する (DP6, 7) 6) 論文発表会において評価する (DP6, 7)</p>
<p style="text-align: center;">態度・志向性</p>	<p>【学修成果の目標】 1) 自らの研究分野における研究倫理基準を遵守する姿勢を有している (DP8) 2) 自らの研究成果を国内外に広く発信する姿勢と意欲を有している (DP9) 3) スポーツ健康科学分野の研究者として、自立して研究活動を行う姿勢と意欲を有している (DP10) 4) 自らの研究成果を、スポーツ健康科学分野における先進的指導実践のために応用する姿勢や意欲を有している (DP11)</p> <p>【到達指標】 1) 大学院学生倫理セミナーに参加している (DP8) 2) スポーツ健康科学研究法の単位を取得している (DP8, 10, 11) 3) 研究計画書を提出し、その審査に合格している (DP8, 10, 11) 4) 博士論文を提出し、その審査に合格している (DP8, 9, 10, 11) 5) 論文発表会で発表している (DP8, 9, 10, 11) 6) 2編以上の原著論文を発表している (DP8, 9, 10) 7) 1編以上の英語原著論文を発表している (DP8, 9, 10) 8) 国内外の学会・研究会で発表している (DP8, 9, 10) 9) 博士論文や論文発表会において、自らの研究課題を指導現場にどのように実践・応用できるか説明できる (DP11)</p>	<p>【教育課程の編成】 1) 各自の専門性を高める 2) 専門の枠を超えて幅広い知識の獲得を目指す 3) 基本的なリサーチメソッドの獲得を目指す</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 1) 各自の専門性を高めるために、「特別研究」を設置する。 2) 関連領域の知識獲得を意図して、論文指導教員全員によるオムニバス形式の科目を設置する 3) 基本的なリサーチメソッドの獲得を目指して、「スポーツ健康科学研究法」を設置する</p> <p>【学修成果の評価方法】 1) スポーツ健康科学研究法の成績で評価する (DP8, 10, 11) 2) 研究計画書において評価する (DP8, 10, 11) 3) 研究計画書の審査会において評価する (DP8, 10, 11) 4) 博士論文において評価する (DP8, 9, 10, 11) 5) 博士論文の審査会において評価する (DP8, 9, 10, 11) 6) 論文発表会において評価する (DP8, 9, 10, 11)</p>
		<p>【求める学生像】 博士課程後期では、高等教育機関あるいは研究機関において独立して研究できる人材を育成するという観点から、 1) 基礎的な学力ならびに創造的で柔軟な発想を持ち、研究を粘り強く遂行できる人 2) 博士課程前期における研究成果に満足せず、研究を継続することを望む人 3) 医療や健康増進に強い熱意がある人 4) 自分の研究成果を広く国外に発信したい人 5) スポーツ・体育分野の出身者以外にもスポーツや健康を科学的に研究することに興味のある人の入学を求めている。そのため、体育・スポーツ関連学部の卒業生のみならず、広範囲からの領域の学生受け入れを目指している。特に、社会人や外国人は積極的に受け入れる。</p> <p>【入学者選抜の在り方】 学生の受け入れにあたっては、一般入学試験に加え、社会人入学試験、外国人留学生試験を実施し、大学院における学業・研究の遂行に必要な専門的知識、論理的で柔軟な思考力、ならびに学業・研究に対する強い意欲を有しているかを重視して選抜を行う。特に、研究計画の新規性・実現性を評価し、将来的に研究者として自立して研究活動を遂行するための資質を有しているかを重視して選抜を行う。</p>